

# 成果報告書

## 「ギャンブル依存症の啓発活動と情報提供および青少年の予防教育」

ギャンブル依存症問題を考える会 群馬

2023年3月25日

### ① 課題認識・解決の目標

#### 【課題】

ギャンブル依存症者の周囲には問題に巻き込まれ、誰にも言えず苦しんでいる家族が多い。社会にギャンブル依存症に対する誤解や偏見があるため、家族内で抱え込み孤立している。正しい知識がないため、支援を受けたり相談窓口があることを知らなかったり、相談を戸惑っている人が多い。

#### 【目指す社会像】

ギャンブル依存症についてより多くの人を理解し、誤解や偏見がなくなり実際に苦しんでいる患者や家族を社会全体で見守り支援する社会像。  
自治体の精神保健福祉センターや保健所、社会福祉協議会の支援者の方たちに、私たちの活動や自助グループを紹介していただく等の連携ができる社会像を目指す。

#### 【解決の目標】

依存症は病気であり、一度発症しても治療や回復の手立てがあることを社会に周知する。  
苦しんでいる当事者や家族に情報提供をおこない、自助グループ、家族会、行政機関などの支援につなげる。  
青少年や社会への予防教育をおこない、早期発見早期治療を目指す。  
ピアサポート研修を行うことで、支援の輪を広げる。

### ② 事業実施内容・活動内容

#### 1. 全国の精神保健センターやギャンブル依存症者、その家族へのアンケート調査を実施

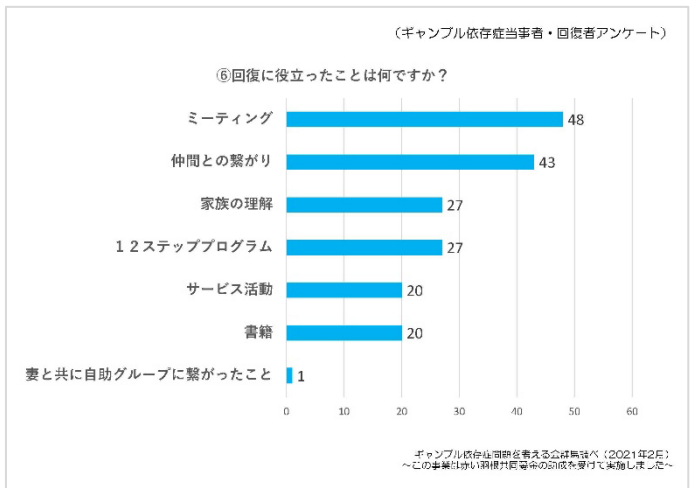
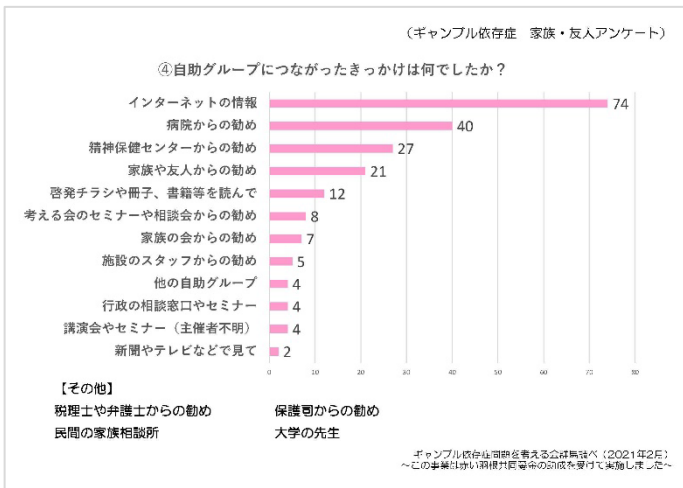
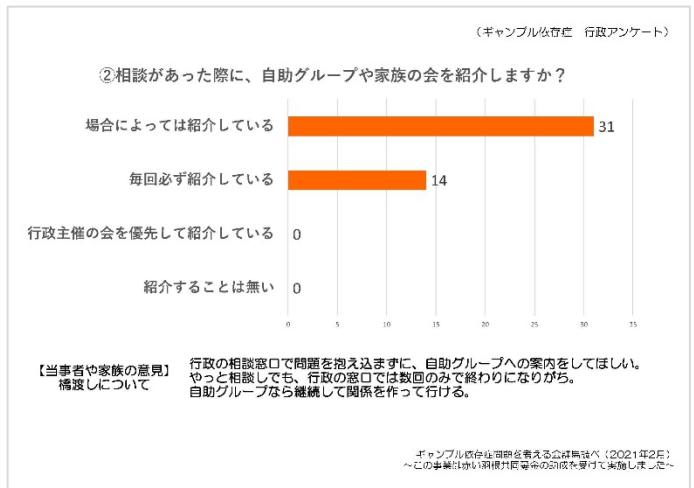
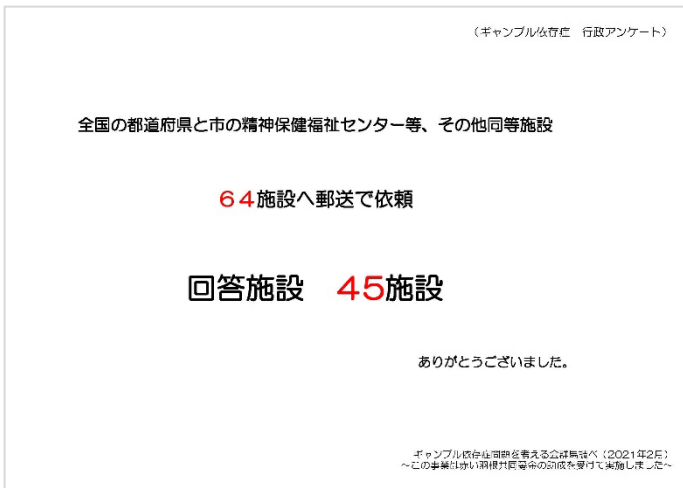
(2020年10月～2月)

精神保健福祉センター	45施設	
ギャンブル依存症者当事者	約50名	
家族	約190名	から回答をいただくことができました。

精神保健福祉センターへのアンケートでは、自助グループや家族会とどのような連携を行っているか。チラシや冊子の掲示や配布、自助グループや家族会の見学交流、相談者の橋渡し、情報交換会の開催など具体的な連携内容を伺うことができました。

ギャンブル依存症当事者や家族へのアンケートでは、回復につながったきっかけや役立ったこと、自助グループや家族会につながったきっかけ、困りごと、行政にのぞむこと、またコロナ禍での状況の変化などを伺うことができました。

現在、私どもの他県のグループでも、地元の行政とつながりを持つことが出来ており、今回全国のセンターにアンケート調査の書類を送付したことで、私どもの団体名と活動内容について、一定のお知らせすることができ、ギャンブル依存症の問題に関心を持っていただけるきっかけになったのではないかと感じております。



## 2. アンケート結果を受けて、ギャンブル依存症に関する youtube 動画を作成し公開

(2020年3月公開)

- 出演 常岡俊昭氏（昭和大学附属烏山病院 精神科医師）  
高知東生氏（俳優・依存症アドバイザー）  
田中紀子氏（公益社団法人ギャンブル依存症問題を考える会 代表）

題名 「超内輪ネタ！ギャンブル依存症支援者と自助グループのつなげ方（アンケート調査）」

<https://youtu.be/sMq8ysTN0qg>

(5,680 回視聴 2021/3月現在)



超内輪ネタ！ギャンブル依存症支援者と自助グループのつなげ方（アンケート調査）

たがりこ 高知東生とメンタルケアにつ... チャンネル登録者数 1.66万人



超内輪ネタ！ギャンブル依存症支援者と自助グループのつなげ方（アンケート調査）

たがりこ 高知東生とメンタルケアにつ... チャンネル登録者数 1.66万人

## 2. ギャンブル依存症啓発マンガ冊子や啓発チラシの印刷と配布 ⇒ YouTube ショート動画作成へ

(2020年度) 保健福祉事務所、消費生活センター、保健所、社会福祉協議会等 約100件送付

(2021年度) 全国の精神保健福祉センター、県内の公営競技の担当管轄部署

保健福祉事務所、消費生活センター、

弁護士総合法律センター、社会福祉協議会、県内大学 約230件送付

※2021年度は、アンケートご協力をしていただいたお礼を兼ね、

全国の精神保健福祉センターへも啓発案内をおおくりしました。

(2022年度) 県内の公営競技の担当管轄部署、保健福祉事務所、消費生活センター

社会福祉協議会、県内大学 約130件送付

県内の市町村の行政や消費生活センター、社会福祉協議会など、ギャンブルや借金の問題で相談に行かれそうな窓口へ、啓発マンガ冊子やチラシを送付いたしました。

支援者から、「このマンガ冊子が支援に役立っている」「自助グループを紹介するきっかけになった」等のお言葉をいただいたり、当事者や家族からの問い合わせをありました。

また、印刷には予算が必要となることや、現在はネット社会であるため、共同募金会の方との話し合いの際に、今後の活動では印刷だけでなく、SNS発信が大切ではないかと気が付ききっかけもいただきました。まずは、YouTube ショート動画の作成をスタートさせました。



YouTube ショート動画

### 3. 家族支援スキルアップ勉強会の開催

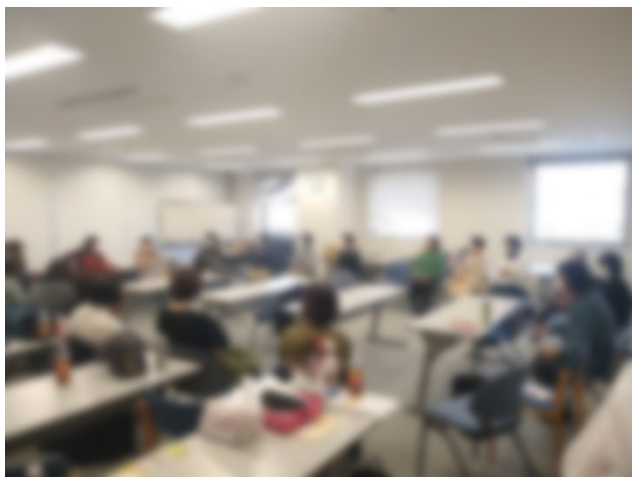
家族支援スキルアップ勉強会（ピアサポート勉強会）を開催しました。約30名参加。依存症者に囚われすぎて家族が病んでしまうのではなく、まずは家族が元気であることが大切だと言われています。ピアサポートにも同じことが言えるのでは無いでしょうか。現在困っている方々をサポートするために、支援することばかりに囚われすぎて疲れ果ててしまうのではなく、長く持続可能なサポートを目指しまずは私たちが元気であることが大切です。

家族プログラムを持っている群馬ダルクさんに依頼をし、家族が元気でいられる具体的な方法を学びました。ワークショップ形式で、参加者が積極的に発言をした勉強会となりました。

また、依存症者と家族をサポートしている他団体グループ（フラワー家族会、菜の花家族会、オアシス、GA）との交流を図ることができました。各団体の活動内容や相談方法の確認、当事者への接し方、家族の対応方法など意見交換を行うことができました。

講師 群馬ダルク 福島シヨーン氏  
平山 晶一 氏

ゲスト 菜の花家族の会 黒川氏  
フラワー家族の会 北爪氏  
オアシス 代表  
ギャンブル依存症当事者



#### ② 振り返り・まとめ

3年間継続して助成金をいただくことで、県内各所の窓口に、ギャンブル依存症についての案内冊子やチラシを広く配布することができました。支援者からお礼のご連絡をいただいたり、配布先でチラシを見て早い段階で相談先に繋がるケースが増え、この疾患について広くお知らせすることができたと感じております。共同募金会さんとの話し合いの中では、コロナ禍を経験し、現在はネット社会でもあることから、印刷物にこだわらず、今後はSNS配信にも力を入れていきたいと気が付くこともできました。ネットでの案内やYouTubeでの配信を今後も行っていきたくております。

この3年間では、当団体がギャンブル依存症についての啓発活動を行っている団体であると、行政や依存症をサポートしている他団体に知っていただける機会をいただき活動の幅が広がりました。今後も継続して交流を取り、この問題でまだお困りの方々へ希望の光がとどきますよう協力して活動をしていきたいと考えております。このような機会をいただき、誠に感謝申し上げます。ありがとうございました。